

霧ヶ峰自然観察研修旅行案内

- 1:日 時 7月23日(木)～24日(金) 集合時間 8時 京都駅八条西口(下記の地図参照)
 2:目 的 長野県霧ヶ峰・車山周辺自然観察 新・都ホテル前路上
 3:持 ち 物 雨具、水筒、弁当(1日目の昼食)、双眼鏡、ストック等々
 4:宿 泊 地 白樺湖湖畔 ホテルパイプのけむり
 5:費 用 26,000円(25人乗りマイクロバスにて)
 6:行 程 表

<1日目>

京都駅→京都東IC→養老SA(トイレ休憩)→駒ヶ根SA(トイレ休憩)→諏訪IC→ビーナスライン→
 8時集合出発 10時 12時
 北八ヶ岳ロープウェイ乗り場→山頂駅・・1G周辺を散策→山頂駅集合→ロープウェイ(16時40分)
 13時頃到着予定
 ・・2G北横岳登山→山頂駅集合→ロープウェイ(16時40分)
 →ホテル(17時30分到着予定)

ホテルでのスケジュール

- ・部屋割り及びホテルの説明終了後部屋各自部屋に移動 荷物の整理及び入浴時間
- ・18時30分 夕食(バイキング)
- ・19時30分～21時 懇親会 集合の部屋は当日連絡します
- ・21時 就寝
- ・6時 起床
- ・7時 朝食(バイキング)
- ・8時 ホテル出発

<2日目>(昼食の弁当調達)

ホテル→車山→山頂(リフト)・・車山肩(コロボックル)・・沢渡・・諏訪神社・・奥霧小屋・・
 8時 8時30分
 八島ヶ原湿原(昼食)→御泉水自然園観察→諏訪IC→恵那SA(トイレ休憩)→養老SA(トイレ休憩)
 11時30分 12時30～14時自然園観察
 →京都東IC→京都駅(解散)
 19時頃

留意事項

- ・1日目雨天時は全員坪庭周辺の散策とする。
- ・2日目雨天時はハイキングを取りやめ車にて移動します。
- ・都合により2日目の御泉水自然園の見学を中止する場合があります。
- ・2日目の車山から八島ヶ原湿原のコースは都合によってコースを変更する場合があります。

担 当

万井・大石・藤井・壺三



坪庭から北横岳コース地図（1日目）

- 1：日 時 2015年7月23日（木） 北八ヶ岳ロープウェイ乗り場（13時頃到着予定）
- 2：行程表 山麓駅→坪庭山頂駅・・北横岳ヒュッテ・・北横岳山頂・・北横岳ヒュッテ・・坪庭山頂駅・・
→ホテル
- 3：行程時間 3時間 *1G：坪庭周辺の散策 2G：北横岳までの登山 雨天時は全員坪庭周辺散策
- 4：行程距離 約3km



森と海の自然科

車山から八島ヶ原湿原コース地図（2日目）

1：日 時 2015年7月24日 ホテル出発 午前8時

2：行程表 ホテル→車山→車山山頂・・車山肩（コロボックル）・・沢渡・・諏訪神社・・奥霧小屋・・

八島ヶ原湿原→御泉水自然園観察→諏訪 IC→恵那 SA（トイレ休憩）→養老 SA（トイレ休憩）→京都

3：行程時間 3時間

4：行程距離 約6km



霧ヶ峰自然観察研修旅行の記録

日 時	2015年7月23日(木)～24日(金)
目 的	長野県霧ヶ峰・車山周辺自然観察
参加者数	森・海メンバー15名+特別参加者8名=計23名
宿泊地	白樺湖湖畔 ホテルパイプのけむり
観察場所	1日目・北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅から「坪庭」又は「北横岳」登山道 2日目・リフト車山駅から山頂・霧ヶ峰ロイヤル前・沢渡り・御射山を経て 八島ヶ原湿原

< 一日目 ・ 7/24 (木) >

8:05 JR京都駅八条口(新・都ホテル前) 25人乗りのマイクロバスで出発!

山科を経て京都東ICより名神高速へ。まず 壺三さんより 今回の自然観察会のスケジュールや霧ヶ峰で今の時期見られると思われる花の説明がありました。今回 森海メンバー以外の方が多く参加されたので まずは 全員が自己紹介をしました。また 長いバスの道中を楽しく行こうと企画担当の大石さん・藤井さんにより「とんちクイズ」やビンゴゲームなど行われ、これで大変いい雰囲気での研修会のスタートができたと思います。

途中、SAで休憩を取り、飯田付近の車中で昼食を取って、諏訪IC(13:30)から中央自動車道を出ました。ビーナスラインを通り 北八ヶ岳ロープウェイ乗り場でバスを下車。ロープウェイは10分程乗って上の駅に到着。山の上は 一面の霧。温度も極端に低くなり 全員防寒具を着るなど寒さ対策をしてから、ここで「北横岳登山組」9名と周辺の「坪庭散策組」14名の2班に分かれて 霧の中での北八ヶ岳高山植物観察会が始まりました。

「坪庭組」は ロープウェイ駅前→第1休憩所付近→第2休憩所→第3休憩所周辺の順で散策。

坪庭の観察で 名前を記録できた高山植物(山草・花・樹木)

- ・オトギリソウ・ウスユキソウ・ハクサンチドリ・ハリブキ・ゴゼンタチバナ・コケモモ
- ・ハハコグサ・キリンソウ・コイワカガミ・ウスノキ・コメツガザクラ・ウラジロヨウラク
- ・チョウジコメツツジ・ヤマハハコ・ハイマツ・クロマメノキ・シラタマノキ・ゴゼンタチバナ
- ・ミツバオウレン・ミヤマニガイチゴ・オダマキ・ミネズオウ・コメバツガザクラ
- ・ガンコウラン・ハクサンフウロ・ノハラアザミ etc. が見られました。

観察後 下り最終ロープウェイ(16:40)に乗るために「北横岳」班と頂上駅で合流。北横岳には 残念ながら時間切れ途中下山となったのですが 壺三さんの詳しい解説付きで 数多くの植物観察が楽しめ 大変良かったとの感謝の言葉が聞かれました。

頂上駅内の「山のカフェ」には 偶然TVのロケ隊が来ていて タレントの夏木洋介さんや岡田可愛さんが 取り囲む人たちに愛想よく答えながら 記念撮影にも応じておられました。ロケ隊全員と同じロープウェイに乗って下山。バスで宿泊地の「白樺湖湖畔のホテルパイプのけむり」へ。 ホテルでは 早い夕食を済ませ ゆっくり温泉に浸かって 一日目のスケジュール終了。



<ウスユキソウ>

< 二日目 ・ 7/24 (金) >

6:00 起床。部屋のカーテンを開けると すぐ前の白樺湖湖畔には すでに何人かの森・海のメンバーが 散策している姿が見られました。 7:00 から朝食。 8:05 バス出発。

観察会2日目スタート! バス内で 壱三さんより この日の行程説明ありました。車窓からは

・シシウド (白い背の高い花) が多数見え

ところどころで・アヤメも咲いていました。

30分弱で 車山リフト前に到着。リフト前の柵内に 多くの花が咲いていました。

・キバナノカワラマツバ・ヤナギラン・イブキトラノオ

・ハナチダケサシ・アカシモツケ

・アカバナシモツケソウ・キンロバイ・アヤメ



<シシウド>

2人から3人で一台のリフトに乗り (8:30)、一度・途中駅でリフトを 乗り継いで9:00 前には 全

員山頂駅に到着。山頂は 今日霧が深くかなり寒いので防寒着を重ね着して 壱三さんの案内で

「爆裂火口」展望所へ向かったところ 霧が深く火口周辺は全く何も見えなくて残念な状態でし

たが高原植物の観察は 展望所周辺やリフト前で十分に出来ました。

・オンタデ・ネバリノギラン・キンバイソウ・ハクサンフウロ

・ツリガネニンジン・シャジン・ワレモコウ

・ノアザミ・ヨツバヒヨドリ・ウスユキソウ・オトギリソウ



<マツムシソウ>

リフト前から車山神社横を通りすぎると すぐ(9:17)車山頂上(1925m)。気象庁・車山レーダー観測所ドーム (平成 11 年設置) があり、ここから本日最終の目的地・八島ヶ原湿原まで ずっと下りの遊歩道。遊歩道沿いには・・・



<ニッコウキスゲ>

・ナンテンハギ・マツムシソウ・ニッコウキスゲ・ヤナギラン・レンゲツツジ

前方からは 次々と車山に向かう多くの登山者が登ってこられる中に 5~6才ぐらいの小さなお子さんを連れた若いご夫婦や さらにほもっと小さい(1~2才)お子さんを抱いて登って来られたご夫婦にすれ違いました。その頃に 先ほどまで霧で全く見えなかった山裾の景色が 霧の切れ目から少しずつ見えてきました。さらに 割と短い時間で霧ははれ 濃い緑の木々・広い草原そしてビーナスラインを走るバスや乗用車も見えてきました。丁度ベンチがある処に着いたので 暑くなった防寒着を脱ぎ 休憩(10:15)を取りながら晴れわたった眼下の眺望を楽しみました。霧ヶ峰ロイヤルイン横では これから車山に上る大勢の小学生の団体にも会いました。その先で 丁度今が盛りと思われる 見事なニッコウキスゲの大群落を目にすることが出来ました。濃いカーキイロの花は一日しかもたないそうですが 同じ茎に下から順に花が咲くので この美しい花が長く楽しめるということです。



<ニッコウキスゲの群落>

・シシウド・コウリンカ・ヨツバヒヨドリ・エゾカワラナデシコ・ニガナ・シロニガナ

急に いろんな鳥の鳴き声が賑やかに聞こえる場所に出てきました。そばを通られた方達に

・ホオアカ・ホトトギス・ノビタキ・カッコウだと 教えて頂きました。

・シラカバ・ナラ・カラマツ・などの木が茂った所に出ました。白樺の木が茂ると言う事は 1000m 位まで下りてきたという事になると児玉さんのお話でした。

・マルバダケブキ・ウツボグサ・ヤマハッカを観察していた近くで

・ウラギンスジヒョウモンと思われる蝶が多数飛びまわっていました。

御射山（みさやま）遺跡近くの「ヒュッテみさやま」前で昼食（11：55）となりました。30 分間程の休憩を取って出発。ここが八島ヶ原湿原の入り口でした。整備された木道に沿って歩くので 一列に並んでの観察です。

八島ヶ原湿原には 大変たくさんの種類の花が有りましたが、記録出来た種は・・・

- ・カラマツソウ・グンナイフウロ・キンバイソウ・アヤメ
- ・ヤナギラン・ノアザミ・ノリウツギ
- ・バアソブ・イブキトラノオ・ウツボグサ・シモツケ
- ・アカバナシモツケソウ・ヨツバヒヨドリ
- ・コウゾリナ・ハナショウブ・オオカサモチ・シュロソウ
- ・ノハナショウブ・オミナエシ



<バアソブ>

「七島八島」と書かれた大きな看板がある 展望所に到着（12：50）です。「朝から ここまで 約7 km 歩いて来ました」という杵三さんの話がありました。見晴らしのとても好い展望所からは これまで通って来た霧ヶ峰高原の広々とした草原とその中のくねくねした遊歩道、そしてその先に 出発時は濃霧に包まれていた車山とその頂上の観測所ドームが 美しい濃紺の空をバックにして くっきりと見られました。



<車山をバックに>

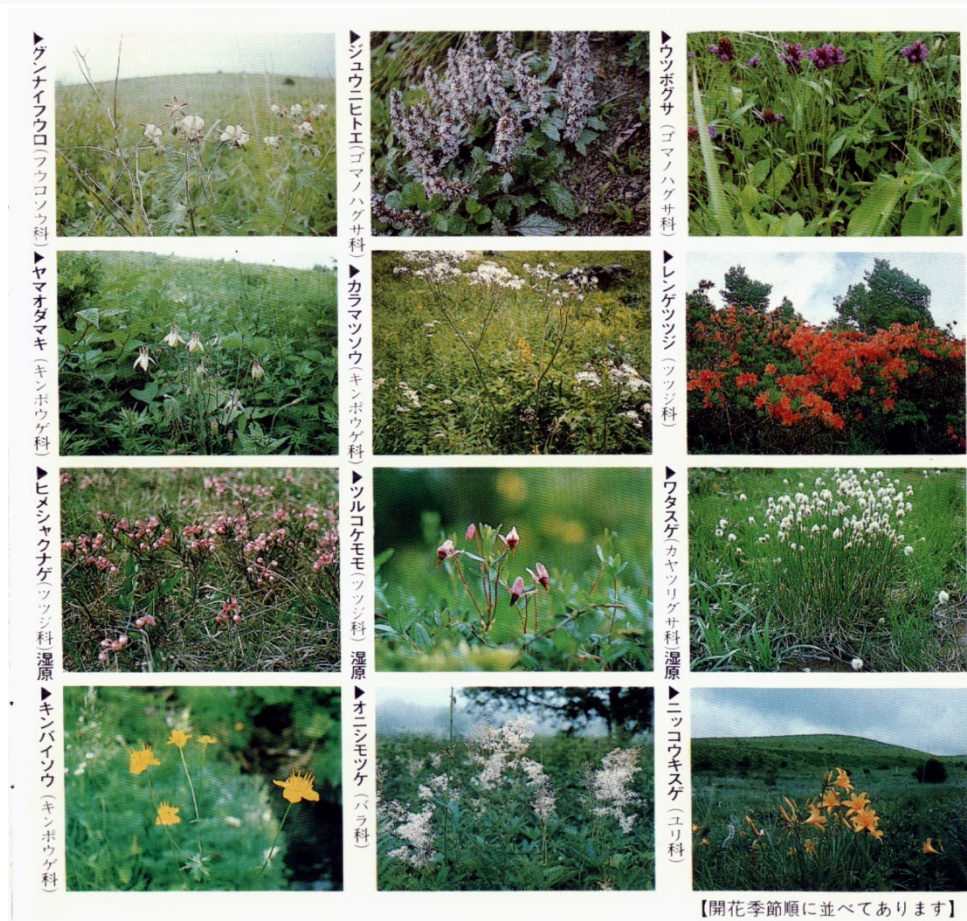
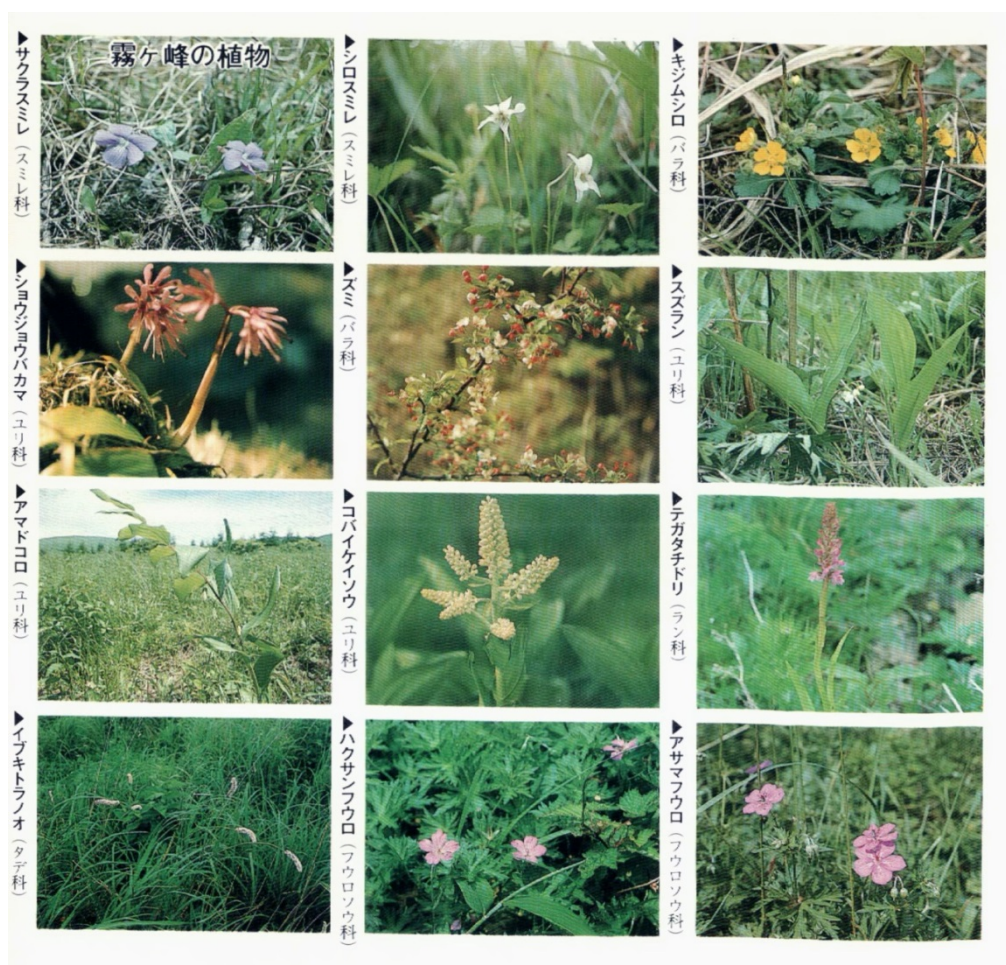
（13：05）駐車場で長時間待っていたバスに乗り、すぐ近くの霧ヶ峰ビジターセンターへ。霧ヶ峰の花の写真や鳥などの展示や霧ヶ峰のVTRを見て、すぐ隣にある道の駅へ。冷たいものを買って食べられる方、帰りの荷物が出発時の倍以上になったのではと思われる程のお土産を買われた方もいらっしゃいましたが、2日間の「霧ヶ峰自然観察研修旅行」スケジュールはこれで終了です。

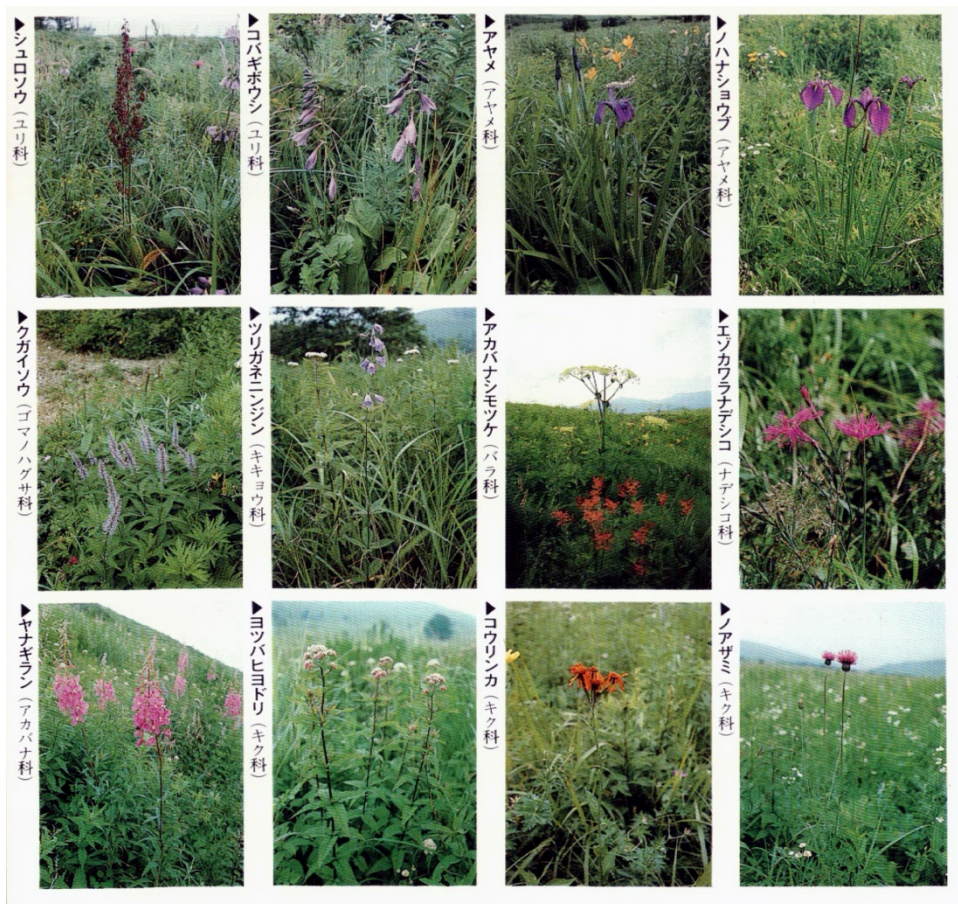
霧が峰の高原から諏訪湖湖畔に下り、岡谷 IC から高速道路に入り、途中駒ヶ岳 S E と養老の S E で2回の休憩をとり、京都東 IC で名神高速道を下り（19：15）てからは 山科の一般道での渋滞に巻き込まれましたが 京都駅に 20：05・23名全員無事に到着！解散となりました。

担当：杵三・大石・藤井

記録：万井 写真：坂根

霧ヶ峰の植物の自然観察より





霧ヶ峰の自然観察会資料 2

植物相の豊かな大草原

霧ヶ峰は車山（1925m）を中心にして噴出したアスピーデ型（盾状）火山で、東西 10 km、南北 16 km の広がりを持ち、そのほとんどは草原で、草原は、標高 1500m から 1700m にかけて、ゆるやかな起伏が展開されている。この草原の雄大さとすばらしい眺望・景観は、我が国でも屈指のものとなっている。

気候は表日本型と裏日本型の影響を受け、大陸的である。夏の最高気温は 25° 前後、夏の平均気温は 12° ～15° で、北海道の稚内の気温に等しい。また南または南南西の上昇気流のために霧の発生が著しく、一年を通じ毎日のように霧が発生している。



豊かなものにし、分布上注目すべき植物が多く、生態的にも特異な現象が見られる。わけても草原の中にある八島ヶ原湿原、車山、踊場の三つの高層湿原及び沢筋や凸凹地にある樹叢は原始的な自然状態をとどめ、学術的にも貴重なもので、これらは草原の一部と共に、昭和 14 年に国の天然記念物として指定を受けている。

夏には百花が競う

霧ヶ峰の草原は、主峰車山の西側に展開され、標高から見ても中部山岳地帯の亜高山帯（1500m～2500m）の下半分に属することになる。本来ならば針葉樹林が発達すべきであるが、地質や地形、特に風の影響が強いため、沢筋や凹地を除いてほとんど樹林らしい林や森は見られない。

草原の春は遅く、生命の息吹を感じるのには、年にもよるが 5 月半ばである。6 月に入るとレンゲツツジの群落の花をつける。7 月上旬～8 月上旬の 1 ヶ月は、ニッコウキスゲの花が全草原をおおい、百花が競う最高の季節である。8 月半ばを過ぎると早くも初秋の気配、マツムシソウが開花しその群落があちこちに目立つ。やがて 9 月、草原の緑は色あせて、今まであまり気づかなかったススキが白銀の穂をつけ波打つ。紅葉は 10 月に始まり、日毎にふもとへさがっていく。

・侵されつつある草原植物

高山性の植物は、自然の風害には耐えうるが、人畜や帰化植物の侵入に対しては、きわめて抵抗力が乏しい。霧ヶ峰はビーナスラインの開通と共に急激に人の往来が激しくなり、これに伴って帰化食鬱の侵入が著しく 20 種に近い。アカナバシモツケソウ群落に白いヒメジョオンが更に大繁殖している（強清水）このような現象はあちらこちらに見られる。この現象が更に進めば、在来の高山性植物は姿を消し、草原は単純化する。貴重な湿原の特有な植物やミズゴケ類も衰退縮小されることが予想される。このような植物相の単純化は、植物の生息にも大きな影響を与える。

・レンゲツツジの群落

草原の周辺を縁取るカラマツ林の柔らかな息吹が目にしみる頃を過ぎると、レンゲツツジの群落が草原の下部から次第に上部に向かって花を付け、薄緑の草原にだいたい色を濃くしていく。

キンバイソウの群落

花が黄色で梅の花に似ていることから金梅草の名がある。この植物は草原の湿地や樹叢近くのやや湿ったところに群落をつくる。7 月半ばが花の最盛期である。

・ニッコウキスゲの群落

夏の霧ヶ峰を代表する植物で、7 月半ばが花の最盛期である！なだらかな斜面に繰り広げられるニッコウキスゲのだいたい色の大群落は実に壮観で、印象的である。日光に多いことからこの名がある。標高 1000m 辺りより下には携帯はよくにているが黄花をつけ、夕方に開花するキスゲ（ユウスゲ）が見られる。

・マツムシソウの群落

8 月半ばを過ぎると草原は早くも初秋。マツムシソウはこの訪れを告げる植物である。群落の規模はニッコウキスゲほど大きくないが、あちらこちらに群落を作り青紫色の清楚な花を付ける。蛙原（げろっぱら）の南部に長塚節の「うれしくもわけしものが悠々に松虫草の咲き続く丘」の歌碑がある。

・ススキの群落

9月に入ると草原の緑は色あせて、今まであまり気がつかなかったススキが穂を付け、白銀の群落が草原を優占し、薄ら寒い感じを与える。やがて10月、散在していたレンゲツツジやミズナラが色づき始め、草原の活動期は終わる。

南限で注目の高層湿原



霧ヶ峰の三つの湿原はいずれも高層湿原で日本でも代表的なものである。高層湿原は最初、沼地のような凹地から始まる。この凹地は周囲からの土砂の流入や湿原性植物の繁殖などのよって次第に埋められていく。ところが標高1000m以上の寒冷な地方では、植物が枯れても腐敗することなく泥炭化し堆積していく。更に長年月たつと湿原の水は酸性に変化する。植物もこれに耐えうるミズゴケ類を主体とするイネ科・カヤツリグサ科の植物が繁茂し出す。しかし、ミズゴケ類が枯死しても分解することがないので、泥炭層の上へ上へと成長し、やがて水面より盛り上がる。またこれに伴って泥炭層も更に厚くなる。つまり草の高い湿原になるのです。高層湿原は北緯36°以北に分布するので、霧ヶ峰はその南限

である。また泥炭層の高さも尾瀬をしのぐことから研究者の注目するところとなり、早くから研究調査がされてきた。

八島ヶ原湿原

霧ヶ峰北西部にある鷲ヶ峰（1798m）、丸山、大笹峰、蝶々深山などに囲まれた窪地（1630m）にあつて面積はおよそ450000㎡でほぼ二等辺三角形をした湿原である。他の車山、踊場湿原にくらべて規模も大きく泥炭層も厚く、分布上注目すべき植物も多いことから学術的な価値が高い典型的な高層湿原である。

この湿原の縁には3つの池がある。北西部には「八島ヶ池」、北東部には「鎌ヶ池」その昼間部には「鬼ヶ泉水」（ひょうたん池）がある。これらの池沼を含む湿原の水は、鎌ヶ池下方の雪知らずから流入する唯一の河川と池沼からの湧水によるだけで降雨によって水量の増減はあってもどんな干ばつでも水は涸れてしまうことはない。この流入や湧水は草原を潤し、いくつかの水路を通り、時に伏流水となって湿原南部に流出し、観音沢を経て諏訪湖に注いでいる。



湿原を東から眺めると、凸レンズを二つ組み合わせたような小山がみえる。これは隣り合った二つの低層湿原が一緒になって高層湿原をつくった名残である。先に書いているように低湿のため植物遺体が腐敗しないで、泥炭層が漸次厚さを増したためである。水面下の泥炭層も含めた測定結果は、最も高いところは8.5mある。泥炭層1mmを形成するのに1年要することから考えればこの湿原は8500年前からはほぼ1万年かかって形成されたと推定することができる。尾瀬ヶ原の4800年から6000年に比べればはるかに古いこととなる。

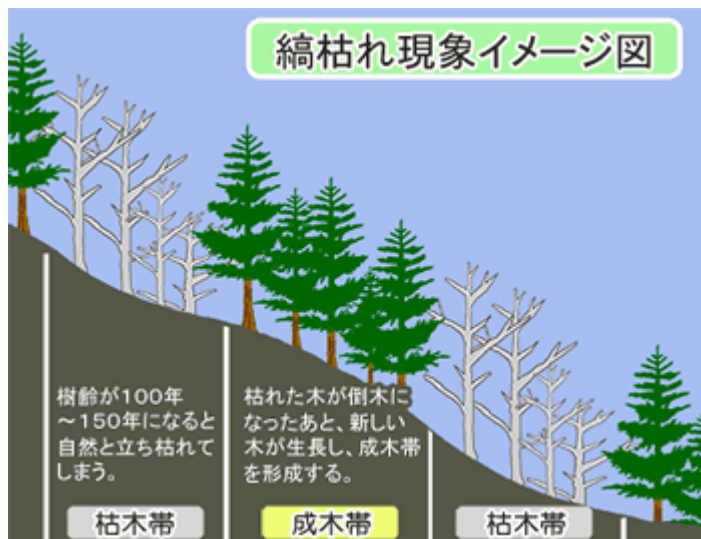
坪庭からみえる「縞枯山」



ロープウェイから右上に見える「縞枯山」は、その名の通り山の斜面が「縞枯れ現象」で覆われている山です。この縞枯れ現象は本州中部ではこの北八ヶ岳が最も有名で、学術的にも大変貴重なものとして注目されています。複数の研究機関が現在も継続研究中ですが、何故このような縞枯れが起こるのかハッキリとした原因の特定は出来ていないようです。縞模様の斜面は確かに神秘的で、訪れる人はその雄大な自然のサイクルにただ圧倒されるばかりです。この縞枯れ現象は年々場所をすこしずつ移動しており、左写

真の様子は現在では形・規模とも変わっていますが、ロープウェイ乗車中～坪庭からもこの様子を見ることが出来ます。主にこの現象が観測出来るのは「縞枯山」ですが、北横岳の山腹の一部や蓼科山の山頂付近、坪庭の先に見える雨池山にも同様の現象が確認できます。

先に述べたように、この縞枯れ現象は年々移動しているのですが、そのメカニズムについて簡単にご説明させていただきます。写真を図解したのが右のイメージ図です。縞枯れ現象は大きく分けて枯木帯と成木帯との2層から形成されていますが、厳密にはその中間に幼木帯というものも存在します。幼木帯は枯木帯の中に既に形成されていることが多く、枯れ木が倒木となる頃にはある程度の大きさまで成長し成木帯を形成します。成木帯の中でも樹齢が進んだ木や、風衝木（風や寒気の影響で斜面の谷川の枝が折れたり育ちが著しく遅い状態の木）となった木から順次枯れてゆき、枯木帯となっていくます。また、幼木帯の中にあっても成長過程で日照不足や混成が原因で枯れてゆく木もありますが、それらに対して人為的な伐採や手入れなどは一切行っておらず、全て自然のサイクルによるものです。



一説ではこのエリア一帯の土壌の影響であるという説があります。坪庭も同様なのですが、この付近は八ヶ岳「最後」の噴火エリアです。よって岩石がむき出しになり、通常植物の育成には非常に厳しい環境下であり、周辺土壌が育成されにくいという特殊条件があります。これは主に育成している木が常緑針葉樹であることも大きな要因の一つとも考えられます。常緑針葉樹は通常落葉しないため、土壌の原料になる有機物が堆積しにくかったり、バクテリアに分解されにくい性質など様々な要因が考えられています。（webより）

蓼科・霧ヶ峰の植物資料

森と海の自然科

番号	和名	科名	81年	82年	83年	84年	85年	86年	88年
1	アカツメクサ	マメ		○	○	○	○	○	○
2	アカバナ	アカバナ						○	
3	アキノキリンソウ	キク	○		○	○	○	○	○
4	アサマフウロ	フウロソウ				○	○	○	○
5	アレチマツヨイグサ	アカバナ		○	○	○	○	○	○
6	イタドリ	タデ	○	○	○	○	○	○	○
7	イブキジャコウソウ	シソ	○	○			○	○	○
8	イブキトラノウ	タデ	○	○	○	○	○	○	○
9	イブキボウフウ	シソ					○		
10	イワアカバナ	アカバナ	○		○	○	○	○	○
11	イワシャジン	キキョウ			○	○			
12	イワブクロ	ゴマノハグサ			○				
13	ウサギギク	キク			○	○	○	○	○
14	ウスベニアカショウマ	ユキノシタ			○	○			
15	ウスユキソウ	キク			○	○	○	○	○
16	ウツボグサ	シソ	○	○	○	○	○	○	○
17	ウド	ウコギ	○	○	○	○	○	○	○
18	ウバユリ	ユリ		○	○	○			
19	ウメバチソウ	ユキノシタ	○		○	○			○
20	オオカサモチ	セリ					○		
21	オオシラヒゲソウ	ユキノシタ			○				
22	オオバギボウシ	ユリ	○	○	○	○	○	○	○
23	オオマツヨイグサ	アカバナ	○	○	○	○	○	○	○
24	オオヤマフスマ	ナデシコ					○		
25	オオヨモギ	キク				○	○		
26	オカトラノオ	サクラソウ	○	○	○	○	○	○	○
27	オクモミジハグマ	キク					○		○
28	オトギリソウ	オトギリソウ		○	○	○	○	○	○
29	オニシモツケ	バラ		○					
30	オニノヤガラ	ラン				○			
31	オミナエシ	オミナエシ	○	○	○	○	○	○	○
32	オオヤマリンドウ	リンドウ			○	○			
33	オヤマボクチ	キク		○		○			
34	カニコウモリ	キク				○	○	○	○
35	カラマツソウ	キンポウゲ	○	○	○	○	○	○	○
36	カワミドリ	シソ			○				
37	カワラナデシコ	ナデシコ	○	○	○	○		○	○
38	カワラマツバ	アカネ		○	○	○		○	○
39	キオン	キク					○		○
40	キツリフネ	ツリフネ	○	○	○	○	○	○	○
41	キバナノヤマオダマキ	キンポウゲ			○	○	○	○	○
42	ギボウシ	ユリ		○	○	○		○	
43	キリガミネアキノキリンソウ	キク					○	○	○
44	キリガミネヒョウギアヤメ	アヤメ		○	○	○	○		○
45	キリンソウ	ベンケイソウ			○	○	○	○	
46	キレンゲショウマ	ユキノシタ			○	○			
47	キンバイソウ	キンポウゲ		○	○	○	○	○	○
48	キンミズヒキ	バラ	○			○	○	○	○
49	クガイソウ	ゴマノハグサ	○	○	○	○	○	○	○
50	クサフジ	マメ					○	○	○
51	クサボタン	キンポウゲ			○	○	○		○
52	クサレダマ	サクラソウ					○		○
53	クルマバナ	シソ	○	○	○	○	○	○	○
54	ゲンンバイヅル	ゴマノハグサ					○		
55	ゲンノショウコウ	フウロソウ					○		○
56	コウゾリナ	キク					○	○	○
57	コウリンカ	キク	○	○	○	○	○	○	○
58	コオニユリ	ユリ	○	○	○	○	○	○	○
59	コキンレイカ	オミナエシ			○	○			
60	コケオトギリ	オトギリソウ					○	○	○

番号	和名	科名	81年	82年	83年	84年	85年	86年	88年
61	コケモモ	ツツジ						○	
62	コゴメグサ	ゴマノハグサ						○	
63	ゴゼンタチバナ	ミズキ			○	○		○	
64	コバイケイソウ	ユリ						○	
65	コバノギボウシ	ユリ				○	○	○	○
66	コマクサ	ケシ			○	○	○		○
67	ゴマナ	キク				○			
68	サラシナショウマ	キンポウゲ	○	○	○		○		○
69	サルオガセ	サルオガセ	○		○	○	○	○	○
70	サワギキョウ	キキョウ				○			
71	シオガマギク	ゴマノハグサ					○		○
72	シキンカラマツ	キンポウゲ			○	○		○	
73	シシウド	セリ	○	○	○	○	○	○	○
74	シモツケソウ	バラ		○	○	○	○	○	○
75	シャジクソウ	マメ			○	○	○	○	○
76	シュロソウ	ユリ	○	○	○	○	○	○	○
77	シラヒゲソウ	ユキノシタ				○			
78	シラヤマギク	キク			○	○	○	○	○
79	シロツメクサ	マメ		○	○	○	○	○	○
80	シロバナ(ハナ)ニガナ	キク					○	○	○
81	センジュガンピ	ナデシコ			○				
82	ソバナ	キキョウ		○	○	○	○	○	○
83	タカトウダイ	キキョウ	○		○	○	○	○	○
84	タカネニガナ	キク						○	
85	タカネヒゴタイ	トウダイグサ			○				
86	タカネママコナ	ゴマノハグサ			○				
87	タカネマンテマ	ナデシコ			○				
88	タケシマラン	ユリ			○	○	○	○	○
89	タケニグサ	ケシ	○	○	○	○	○	○	○
90	タチコゴメグサ	ゴマノハグサ			○		○		○
91	タマガワホトトギス	ユリ			○	○	○	○	○
92	タムラソウ	キク	○	○	○	○	○	○	○
93	チダケサシ	ユキノシタ			○	○	○	○	○
94	ツクシカラマツ	キンポウゲ			○	○	○	○	○
95	ツリガネニンジン	キキョウ	○	○	○	○	○	○	○
96	ツリフネソウ	ツリフネソウ	○	○	○	○			
97	テガタチドリ	ラン					○		
98	トモエシオガマ	ゴマノハグサ	○		○	○	○		○
99	トモエソウ	オトギリソウ	○	○	○	○	○	○	○
100	トリアシショウマ	ユキノシタ		○	○				
101	トリカブト	キンポウゲ		○	○	○			○
102	ナンテンハギ	マメ			○	○	○	○	○
103	ナンバンハコベ	ナデシコ		○			○		○
104	ニガナ	キク	○		○	○	○	○	○
105	ニッコウキスゲ	ユリ	○	○	○		○	○	○
106	ヌスビトハギ	マメ				○	○		○
107	ネバリノギラン	ユリ					○		
108	ノアザミ	キク	○	○	○	○	○	○	○
109	ノウゴイチゴ	バラ				○			
110	ノコギリソウ	キク	○	○	○	○	○	○	○
111	ノハナショウブ	アヤメ		○	○	○	○		
112	ノハラアザミ	キク		○	○	○			
113	ノリウツギ	ユキノシタ			○	○	○	○	○
114	バアソブ	キキョウ			○		○	○	○
115	ハクサンフウロ	フウロソウ	○	○	○	○	○	○	○
116	ハナイカリ	リンドウ	○		○	○	○	○	○
117	ハナチダケサシ	ユキノシタ			○	○	○		
118	ハバヤマボクチ	キク	○	○	○	○	○	○	○

番号	和名	科名	81年	82年	83年	84年	85年	86年	88年
119	ハンゴウソク	ヒメシヤジン		○	○	○	○		○
120	ヒメジョオン	キク	○	○	○	○	○	○	○
121	ヒメトラノオ	ゴマノハグサ			○	○			
122	ヒメノダケ	セリ			○	○			
123	ヒヨドリバナ	キク		○	○	○			
124	フシグロセンノウ	ナデシコ	○	○	○	○	○		○
125	ベニバナイチヤクソウ	イチヤクソウ				○		○	
126	ベニバナシモツケソウ	バラ					○	○	○
127	ベンケイソウ	ベンケイソウ						○	
128	マツムシソウ	マツムシソウ	○	○	○	○	○	○	○
129	マツモトセンノウ	ナデシコ		○	○	○	○		○
130	ママコナ	ゴマノハグサ		○	○	○	○	○	○
131	マルバダケブギ	キク	○	○	○	○	○		○
132	マルバハギ	マメ			○	○	○		○
133	ミヤマアカバナ	アカバナ			○	○			
134	ミヤマアザミ	キク			○	○			
135	ミヤマウイキョウ	キク			○	○			
136	ミヤマキンポウゲ	キンポウゲ					○		○
137	ミヤマコゴメグサ	ゴマノハグサ			○	○			
138	ミヤマゼンコウ	セリ			○				
139	ミヤマダイヤモンドソウ	ユキノシタ			○				
140	ミヤマハタザオ	アブラナ							
141	ムカゴトラノオ	タデ				○			
142	ムシトリナデシコ	ナデシコ		○	○	○	○	○	○
143	メタカラコウ	キク					○	○	○
144	ヤナギラン	アカバナ	○	○	○	○	○	○	○
145	ヤブカンゾウ	ユリ				○	○	○	○
146	ヤマオダマキ	キンポウゲ	○		○	○	○	○	○
147	ヤマトラノオ	ゴマノハグサ					○		○
148	ヤマトリカブト	キンポウゲ						○	
149	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ			○	○	○	○	○
150	ヤマハタザオ	アブラナ						○	
151	ヤマハハコ	キク			○	○	○	○	○
152	ヤマブキショウマ	バラ			○				
153	ヤマホタルブクロ	キキョウ		○	○	○	○	○	○
154	ヤマユリ	ユリ	○						
156	ヤマラッキョウ	ユリ	○			○	○	○	○
157	ユウスゲ	ユリ		○	○	○		○	
158	ヨツバヒヨドリ	キク			○			○	○
159	ルリトラノオ	ゴマノハグサ	○		○	○	○		○
160	レイジンソウ	キンポウゲ		○	○	○	○		○
161	レンゲショウマ	キンポウゲ				○		○	
162	ワレモコウ	バラ	○	○	○	○	○	○	○

* 1981年から88年までの7年間(87年観察会なし)枚方の植物愛好者が霧ヶ峰周辺の植物を観察した記録です。